

令和3年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 10【号】



雪月花アーカイブ

「なぞなぞ」の論理構造

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

先日、ゆき組の園児を対象に「お話ごっこ」という遊びを行った。これは、ゆき組の園児全員に対して、一人ひとり順番に園長室に来てもらい、机の間にはさんだ対面型の環境で、向かい合って2人で「お話」をするというものである。お話といっても、私が園児にいくつかの質問をし、園児がその質問に答えるという形式のやり取りである。

普段、園児が園長室に来ることはめったにない。ましてやそこで園長と向かい合ってじっくり話をするなどということはずくない。慣れない環境の中で、どの園児も大体緊張し無口になる。そのためなのか、例えば「好きな食べ物は何ですか？」と質問をしても、返ってくる言葉は「イチゴ」もしくは「イチゴです」といった、「単語」や「端的な答」になることが多い。

ところで、子どものなぞなぞの定番に次のようなものがある。「トラックが曲がり角で何かを落としました。何を落としたのでしょうか?」。答は「スピード」である。「スピードを落とさないと曲がり角を曲がりきれないから」というのがその理由である。

このなぞなぞの構造は「問い」「答」「理由(補足説明)」の3層構造となっている。

- ① 問い:「トラックが曲がり角で何かを落としました。何を落としたのでしょうか?」
- ② 答:「スピード」
- ③ 理由(補足説明):「スピードを落とさないと曲がり角を曲がりきれないから」

この構造は「論理的な考え方」「論理的な話し方」「論理的な書き方」の基盤である。そのため、この構造に基づいた受け答えを行うと相手に納得感を感じさせやすい。

さて、園児に「好きな食べ物は何ですか?」と質問したとする。前述の「イチゴ」「イチゴです」では「答」のみである。質問者はその「答」に対して「どうしてイチゴが好きなんですか?」と「理由(補足説明)」を求める質問を重ねなければならない。質問者にとってその追加質問をすることは少々面倒に感じるため、その分、回答者の印象が損なわれる可能性がある。なので、「理由(補足説明)」は聞かれる前に言うほうがいい。

- ① 質問:「好きな食べ物は何ですか?」
- ② 答+理由(補足説明):「イチゴです。甘くて、食べやすく、おいしいからです」

「質問」に対しては、「答」と「理由(補足説明)」をセットにして返答すると心証も良い。質問に対する答に「正しい答」はないが、賢明な「答え方」はあるのである。